

令和元年度

さいたま市図書館評価 報告書  
(平成30年度事業対象)

令和元年11月

さいたま市立中央図書館

# 目 次

1	評価の目的と経緯	1
2	評価の方法	2
3	評価の結果	3
4	意見聴取	7
5	さいたま市図書館評価票（平成30年度）	
	【目標】①図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化	12
	【目標】②幅広く計画的な資料の収集・保存	13
	【目標】③地域の歴史と文化の保存	14
	【目標】④ICT（情報通信技術）を活用したサービスの充実	15
	【目標】⑤文化事業の開催	16
	【目標】⑥あらゆる世代に向けたサービスの充実	17
	【目標】⑦レファレンスサービスの充実	18
	【目標】⑧地域の課題解決	19
	【目標】⑨生活支援サービスの展開	20
	【目標】⑩バリアフリーサービスの充実	21
	【目標】⑪多文化サービスの充実	22
	【目標】⑫子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	23
	【目標】⑬図書館評価と市民意識の反映	24
	【目標】⑭市民との協働	25
	【目標】⑮関連機関（公共機関・民間機関・NPO）との連携	26
	【目標】⑯地域の特色を生かした運営	27
	【目標】⑰親しみやすい図書館づくり	28
	【目標】⑱職員の資質・能力の向上	29
	【目標】⑲専門的職員の配置	30
	【目標】⑳施設・設備の充実	31
	【目標】㉑持続的で安定した図書館の運営	32
	【目標】㉒危機管理体制の強化	33
	参考資料	
	図書館法・図書館の設置及び運営上の望ましい基準	34
	さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項	35
	さいたま市図書館ビジョン	40

# 1 評価の目的と経緯

## (1) 評価の目的

各年度の図書館サービス、その他図書館の運営状況について、目標及び事業の達成状況の点検・評価を行い、図書館サービスの向上を図るとともに、評価の結果を積極的に公表します。

## (2) 評価の経緯

図書館法第7条の3において、「図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

また、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」においても、市町村立図書館はサービスの「達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない」とされています。

平成 21 年度	図書館評価について検討を開始
平成 22 年度	平成 21 年度の実績について評価を試行
平成 23 年度	平成 22 年度の実績について評価を実施
平成 24 年度	平成 23 年度の実績について評価を実施 「さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項」を制定 平成 25 年 3 月に策定した「さいたま市図書館ビジョン」の 22 の基本方針のうち 16 項目を平成 25 年度の評価目標として指標及び目標値を設定
平成 25 年度	平成 24 年度の実績について評価を実施 「さいたま市図書館ビジョン」の 22 の基本方針のうち 20 項目を平成 26 年度の評価目標として指標及び目標値を設定
平成 26 年度	平成 25 年度の実績について評価を実施 「さいたま市図書館ビジョン」の 22 の基本方針を平成 27 年度の評価目標として、指標及び目標値を設定

平成 27 年度～30 年度

各年度とも前年度の実績について評価を実施  
「さいたま市図書館ビジョン」の 22 の基本方針を翌  
年度の評価目標として、指標及び目標値を設定

令和元年度

平成 30 年度の実績について評価を実施  
「さいたま市図書館ビジョン」に基づく令和 2 年度  
の取組について評価の指標及び目標値を検討中

## 2 評価の方法

「さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項」に基づき、毎年度、図書館の運営状況について評価を行います。

さいたま市図書館では、平成 25 年 3 月に「さいたま市図書館ビジョン」（本報告書 p 40～参照）を策定し、地域の知の拠点としての役割を果たしていくため、4 つの目標と 22 の基本方針を定めました。評価にあたっては、この基本方針を目標に設定し、目標ごとに指標及び目標値を定め、達成状況について評価を行います。

評価の結果は、ホームページ等を活用して市民に公表します。また、この結果に基づき図書館運営の改善に努めます。

### (1) 評価の流れ

評価に用いる指標を設定



各指標の目標値を設定



(事業実施)



目標値と照らして、指標となった取組の達成状況により評価



評価結果の報告と公表

### (2) 指標・目標値の設定

平成 30 年度の事業を対象とする評価は「さいたま市図書館ビジョン」に基づく取組内容（平成 30 年度）により、59 の指標と目標値を設定し

ています。

### (3) 評価基準

評価を行うに当たり、各取組を明確に評価できるよう、以下の評価基準を定めています。

#### ア 指標の評価基準

指標の評価は、指標ごとに設定した目標値に対する事業の達成状況を目標達成率として、a～dの4段階で評価するものです。

また、a～dの各段階に対応した評点を与えます。

指標別評価	評価基準	目標達成率	評点
a	目標値を達成できた	目標値の100%以上	3
b	目標値をほぼ達成できた	目標値の80%以上100%未満	2
c	目標値をあまり達成できなかった	目標値の50%以上80%未満	1
d	目標値を達成できなかった	目標値の50%未満	0

#### イ 目標の評価基準

各目標に設定された指標の評点の平均点により、A～Dの4段階で総合評価を行います。

総合評価	評価基準	評点の平均
A	目標を達成できた	2.7以上
B	目標をほぼ達成できた	2.0以上2.7未満
C	目標をあまり達成できなかった	1.0以上2.0未満
D	目標を達成できなかった	1.0未満

## 3 評価の結果

### (1) 評価結果の一覧

平成30年度の評価結果は、次の表のとおりです。

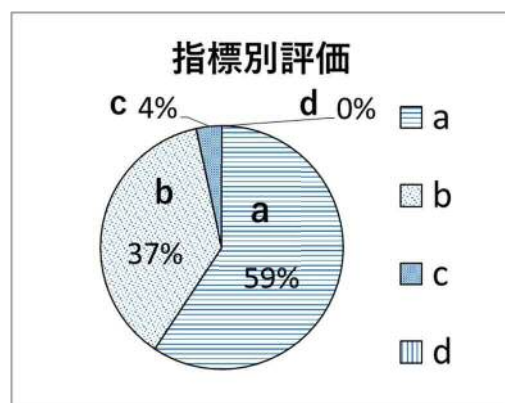
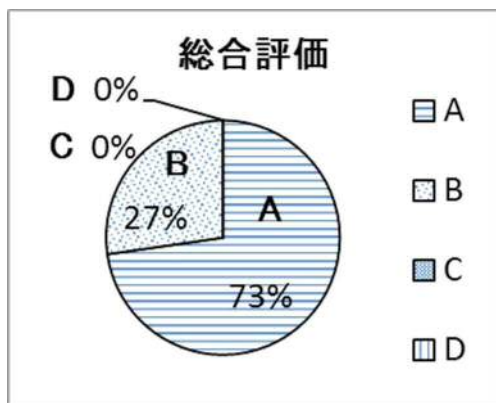
平成30年度図書館評価一覧

目 標		評価	指 標
知的 好奇心に 応える 図書館	① 図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化	B	新規登録者数=b 貸出総数=b 来館者数=b 貸出利用人数=b 市民一人当たりの貸出数=b メールマガジン配信件数=a パブリシティ件数=a
	② 幅広く計画的な資料の収集・保存	B	資料回転率=b 雑誌タイトル数=b 新聞タイトル数=b 所蔵タイトル数(図書)=b 市民一人当たりの資料数=b
	③ 地域の歴史と文化の保存	A	地域・行政資料の蔵書数=a デジタル化した地域資料のインターネット公開=a
	④ ICT(情報通信技術)を活用したサービスの充実	A	ホームページコンテンツの充実=a インターネット延利用人数=b 自動貸出機の整備=a
	⑤ 文化事業の開催	B	講座等の実施回数=b 講座等の参加人数=b 映画会の開催回数=a 映画会の参加人数=b 展示会の開催回数=a
生きる 力を支 える 図書 館	⑥ あらゆる世代に向けたサービスの充実	A	テーマ資料展示の実施回数=a 各世代向けの本の紹介資料作成=a
	⑦ レファレンスサービスの充実	A	レファレンス受付件数=a レファレンス事例の公開件数=a 職員レファレンス研修の開催回数=b パスファインダー(調べ方案内)作成数=a
	⑧ 地域の課題解決	A	町おこしや地域活性化、地域コミュニティなどの課題に関わる資料の市民への提供=a 市の各所管からの業務に対する問合せ件数=a
	⑨ 生活支援サービスの展開	A	日常生活での課題解決に関わる分野の情報提供の取組=a
	⑩ バリアフリーサービスの充実	A	音訳資料・点訳資料の所蔵数=a 対面朗読回数=b 宅配サービスの貸出数=a
	⑪ 多文化サービスの充実	B	外国語資料の受入点数=a 多文化サービスに関わる展示=b
	⑫ 子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	B	小学生の不読者の割合=b 中学生の不読者の割合=c 高校生の不読者の割合=b 子ども向け行事開催数=a 読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施=c 子ども向けの資料案内の作成=b 学校・保育園等に対する訪問・招待実施回数=a
市民 ととも に 歩む 図書 館	⑬ 図書館評価と市民意識の反映	A	図書館評価の実施と公表=a 「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」の実施と公表=a
	⑭ 市民との協働	B	ボランティアとの協働事業数=b ボランティアとの協働事業の延実施回数=b
	⑮ 関連機関(公共機関・民間機関・NPO)との連携	A	連携事業の連携先機関数=a 職場体験の受入件数=a
	⑯ 地域の特色を生かした運営	A	地域の特色を生かした取組=a
誰も が安 心し て 図書 館	⑰ 親しみやすい図書館づくり	A	「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」における満足度=a
	⑱ 職員の資質・能力の向上	A	組織内研修の実施回数=a 派遣研修の件数=a
	⑲ 専門的職員の配置	A	専門性の向上につながる研修の受講や講師等としての派遣=a 専門性を生かした適切な資料の提供や紹介=a
	⑳ 施設・設備の充実	A	施設・設備の計画的な改修及びバリアフリー化の推進(改修館数)=a
	㉑ 持続的で安定した図書館の運営	A	業務マニュアルの整備・見直し=a 財源確保や経費節減につながる取組=a
	㉒ 危機管理体制の強化	A	職員の危機管理意識を高める取組=a

評価基準別にみると、以下のとおりとなります。

評価基準	A	B	C	D	合計
総合評価	16	6	0	0	22

評価基準	a	b	c	d	合計
指標別評価	35	22	2	0	59



## (2) 評価

### ア 平成30年度さいたま市図書館の状況

- ・大宮東図書館 平成30年9月3日～平成31年3月19日 中規模修繕のため休館
- ・与野南図書館 平成30年9月3日～平成31年3月31日 中規模修繕のため休館
- ・南浦和図書館 平成30年11月1日～平成31年3月7日 施設修繕のため休館
- ・電子書籍サービス 平成30年度中に3,000タイトルを追加。
- ・SNS（ツイッター）による情報発信 平成30年度中、400回以上のツイートを実施。
- ・子ども読書活動の推進 各図書館での「冬の読書キャンペーン」としてイベントを実施。また、中高生向けの図書館ボランティア体験プログラム「さいたま・ライブラリー・サポーターズ(リブサポ)」の開催を拡充。

### イ 評価の説明

目標の達成状況については、総合評価では目標(目標値)を「達成できた」の割合は73%、指標別評価では59%となりました。目標(目標値)を「達成できた」と「ほぼ達成できた」を合わせると、総

合評価全体では 100%、指標別評価全体では 96%の達成状況となり、概ね達成できたといえます。

「さいたま市図書館ビジョン」で掲げる 4つの目標ごとに達成状況をみると、「知的好奇心に応える図書館」では総合評価でAが 2つ、Bが3つとなりました。【目標】①の「新規登録者数」「貸出総数」「来館者数」「貸出利用人数」「市民一人当たりの貸出数」は、平成 29 年度実績よりは上回ったものの、すべて目標値を下回りました。この結果は、スマートフォン等の普及による読書環境の変化があると考えられ、それは世論調査でも読書離れの傾向に表れているといえます。また、全国的に見ても図書館の利用は減少傾向にあり、加えて、3 図書館の修繕による長期休館の影響が想定以上に大きかったことも一因と考えられます。【目標】②については、幅広い蔵書の整備・維持に取り組んできましたが、「雑誌タイトル数」は減少し、「所蔵タイトル数(図書)」は目標に届かないなど、厳しい結果となりました。【目標】④の「ホームページコンテンツの充実」については、新コンテンツを追加し、積極的に情報発信に取り組みました。

「生きる力を支える図書館」では、総合評価でAが 5つ、Bが 2つとなりました。【目標】⑥の「テーマ資料展示の実施回数」では、過去最多の実施回数となり、【目標】⑦では、レファレンスサービスの一環として「パスファインダー(調べ案内)作成数」が大きく伸びるなど、各々取り組んだ成果が出ています。また【目標】⑩の指標「音訳資料・点訳資料の所蔵数」及び【目標】⑪の指標「外国語資料の受入点数」ではそれぞれ目標を達成しており、多様な利用者が図書館を利用できる環境の整備を推進しました。【目標】⑫では、「中学生の不読者の割合」「読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施」がcという結果になりましたが、「学校・保育園等に対する訪問・招待実施回数」は増加し続けており、子ども読書推進活動の支援としてのサービスは着実に実施しています。

「市民とともに歩む図書館」では、Aが 3つ、Bが 1つとなりました。【目標】⑭の「ボランティアとの協働事業数」は目標値には届きませんでした。【目標】⑮の「連携事業の連携先機関数」については、様々な機関との連携事業を行い、目標を達成しました。「職



場体験の受入件数」についても、中高生向けのボランティア体験、「さいたま・ライブラリー・サポーターズ（リブサポ）」のプログラム数なども増え、目標値を大きく上回りました。【目標】⑬図書館評価と市民意識の反映、【目標】⑯地域の特色を生かした運営、の実施目標についても、着実に取り組みました。

「誰もが安心して使える図書館」は6つの目標すべてがAとなりました。【目標】⑰の指標「『さいたま市図書館の利用に関するアンケート』における満足度」では、昨年度を上回る90.6%の高い評価をいただきました。【目標】⑱の「組織内研修の実施回数」「派遣研修の件数」ともに、積極的に研修に参加し、目標値を達成しました。【目標】⑲の「専門性の向上につながる研修の受講や講師等としての派遣」の研修の受講については、専門的知識を高めるための外部研修にも積極的に参加しました。また、施設・設備の改修計画やバリアフリー化の推進の実施、消防訓練の実施など、図書館を安全にご利用いただくための取組を実施しました。

## 4 意見聴取

「さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項」第4条に基づき、令和元年度第1回図書館協議会（7月22日開催）において、評価票（平成30年度）の報告及び意見聴取を行いました。8月19日までの意見聴取期間を含めて、協議会委員より寄せられた意見は次のとおりです。ご意見は事業実施にあたり参考とさせていただきます。なお、ご意見に含まれた質問に対する回答は、「脚注」をご覧ください。

### (1) 知的好奇心に応える図書館

#### ア【目標】⑤ 文化事業の開催

- ・「文化事業の開催」の説明で、結果の理由が書かれているものと書かれていないものがある。現象だけを記述するのか、その理由まで書くのか切り分けをした方がいい。
- ・結果について、その理由を考察しないのであれば、改善に至ることはない。目標を達成するつもりがないということなのか。目標を達成できなかった理由について、わからないままにすべきではないと思う。

- ・講座の実施回数の目標値は、どのような根拠に基づいているのか。  
(注1 参照)
- ・評価はbであるが、回数にこだわらなくてもいいのではないか。内容が良ければいいし、毎年開催しないものもあると思う。

## (2) 生きる力を支える図書館

### ア【目標】⑥ あらゆる世代に向けたサービスの充実

- ・公民館で、シニアに向けて読書の呼びかけのポスターがあり、「ブックリストを差し上げます」という記述があったが、このブックリストはシニア向けのものなのか、または展示テーマに沿った内容なのか。(注2 参照)

### イ【目標】⑦ レファレンスサービスの充実

- ・国立国会図書館の歴史的音源サービスがどのようなものなのか知りたい。(注3 参照) また、さいたま市の独自の音源についても何か考えているのか知りたい。(注4 参照)

### ウ【目標】⑧ 地域の課題解決

- ・「地域に関する資料の提供を積極的に行いました」とあるがこの「地域に関する資料」とは具体的にどのようなものを指すのか知りたい。(注5 参照)

### エ【目標】⑨ 生活支援サービスの展開

- ・区ごとに存在しているであろう、固有の課題を市民から汲み取ることとはしていないのか。(注6 参照)

- 
- 注 1) 前々年度の実績を基に、工事等による休館の影響を加味して、目標値を設定している。
- 注 2) シニア向けのブックリストは、作成していない。一般向けにテーマ資料展示に沿ったブックリストは作成・配布している。
- 注 3) 歴史的音源とは、国立国会図書館が提供している「国内で製造された SP 盤等に録音された様々なジャンルの音源をインターネット上で楽しめるサービス」で、桜図書館で提供している。
- 注 4) 現在、具体的な計画はないが、音源の著作権処理等の問題も含めて今後の研究課題と考えている。
- 注 5) 各館それぞれの地域の、特色、状況などを紹介した資料で、たとえば旧中山道、荒川周辺の自然や歴史、鉄道の街大宮に関するものなど、地域・郷土の資料などを指しており、他市にはない、固有で貴重なものも所蔵している。
- 注 6) 毎年、市内全図書館で行っている「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」に自由記載欄を設け、各図書館に寄せられた地域的な課題が指摘されれば、図書館運営に活かしたり、区担当課と連携するなどしている。

オ【目標】⑩ バリアフリーサービスの充実

- ・「宅配サービス」とは、どのようなものか。(注7参照)
- ・音訳資料や点訳資料は“関連機関・団体との連携により”作製したとあるが、具体的にどのような機関・団体と作製したのか。また、「音訳資料・点訳資料の所蔵数」が増加しているのは、何か特別に行っているか。(注8参照)

カ【目標】⑪ 多文化サービスの充実

- ・評価の説明で紹介されている「多言語でのおはなし会」の内容を知りたい。(注9参照)
- ・多言語でのおはなし会で本当に必要とする言語はなにか。講師が話せる言語で開催するのではなく、必要な言語によるおはなし会が望ましいのではないか。

キ【目標】⑫ 子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携

- ・平成28年度、29年度には行っていなかった「学校図書館対象資料頒布会」がなぜ大宮西部図書館で平成30年度になって始まったのか理由を知りたい。(注10参照)

---

注7) 図書館利用に障害のある方を対象に、さいたま市図書館が所蔵している貸出制限をしていない資料を、図書館に来館することなく利用できるサービス。送付時の送料は図書館が負担し、返却時の送料は利用者が負担する。貸出可能数は10点までで、貸出期間は3週間となっている。

注8) 関係機関とは、資料の寄贈を受けた伊藤忠記念財団、毎日新聞社、日本ライトハウスを指す。関係団体とは、さいたま市図書館で活動をしている以下のボランティア団体を指す。

音訳ボランティア：音訳グループ木曜会

朗読ボランティア：ひびき、けやきの会

点訳ボランティア：点訳グループこでまり

点訳絵本作成ボランティア：点訳絵本グループかたつむり、

点訳絵本グループてんてん絵本の会

また、所蔵数の増加に直接関係はしないが、サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）の研修会に出席している。

注9) 中央図書館の「バイリンガルおはなし会」では英語と日本語による絵本の読み聞かせ、歌遊び等、年4回開催。武蔵浦和図書館の多文化子育ての会 Coconico による「Coconico 多言語おはなし会」では、日本語と外国語による絵本の読み聞かせ、ワークショップを年1回。南浦和図書館の「Coconico 多言語おはなし会」、桜図書館の「オランダ語であそぼ！ブルーナおじさんの国のおはなし会」を年1回開催した。

注10) 以前から「大型団体貸出業務」を行っていたが、資料が古くなりながらも、新しい資料になかなか替えられないという状況にあった。また、新規事業で「学級文庫用図書貸出」を始めることになり、この事業を拡充して、従来の「大型団体貸出」業務を縮小する方針となった。それにともしない除籍した「大型団体貸出」の本を平成30年度に市内の市立小中学校の希望する学校に配布した。

- ・小学校の読み聞かせボランティア団体について、図書館は把握しているか。(注 11 参照)
- ・読み聞かせボランティア団体へ、図書館から講師の出張派遣を行っているか。(注 12 参照)
- ・「子どもと一緒に読書タイム」とは何か。(注 13 参照)
- ・おはなし会の開催が、不読率の低下に結びつかないのが問題で、子どもに言葉を伝える、言葉を大切に育てるといふ、図書館の使命を理解してもらふ活動を意識的にやって欲しい。
- ・読まない子、来館しない子、また保護者に伝える努力が必要なのではないか。
- ・読書手帳の認知度が低い。
- ・読み聞かせ活動や朝読が、子ども自身の読書につながっていない。
- ・読めない子、読む時間のない子、読むことに関心のない子を対象として考えることも必要ではないか。
- ・ブックスタートは図書館が関わっていないので、その場で詳しい説明が聞けない。
- ・2歳児向けのセカンドブックスタートを実施している他自治体もあるが、さいたま市でもできるといいと思う。

### (3) 市民とともに歩む図書館

#### ア【目標】⑭ 市民との協働

- ・市民との協働によって具体的にどのような事業が行われ、どのような成果が得られたのかが知りたい。(注 14 参照)

#### イ【目標】⑯ 地域の特色を生かした運営

- ・Jリーグクラブチームとの連携内容にあるおはなし会とはどのようなイベントか。また、おはなし会の対象は。(注 15 参照)

---

注 11) 読み聞かせボランティアが活動していることは承知しているが、個々の学校単位での、詳細な活動状況は現在把握していない。今後ボランティアに関する設問を含む全校調査を計画している。集計結果は各図書館だけでなく、各学校にも報告予定。

注 12) 図書館によっては、すでに学校への講師派遣を行っている。最寄りの図書館でご相談いただければ、希望に沿った形で対応可能。

注 13) 「子ども読書活動推進計画」でうたっている、読書活動を推進する各種の取組を対象にしたキャッチフレーズ。

注 14) 「ストーリーテリング入門講座」や「おはなしボランティア養成講座」等、特に読み聞かせに関する講座などで講師として協力いただいております。おはなしボランティア団体の活動強化に繋がっている。

注 15) 試合開始前に、スタジアムの一角で、子どもを対象にした絵本の読み聞かせを実施しているもの。

- ・「バラのまちだより」を紹介したら、とても好評を得ることができた。

(4) 誰もが安心して使える図書館

ア【目標】⑰ 親しみやすい図書館づくり

- ・さらに良い接遇を目指してほしい。

イ【目標】⑳ 危機管理体制の強化

- ・犯罪が起きた場合、中央図書館ではどう誘導するのか、利用者に行動指針として示すなど、周知してもいいのではないか。

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】①	図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用促進のために、報道機関への資料提供を有効的に活用し、PRを行います。</li> <li>・ホームページやメールマガジン等を活用し、図書館サービスについて情報を発信します。</li> <li>・図書館を利用したことのない人々に対するPRを行います。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
新規登録者数	31,800人	29,425人	b
貸出総数	9,884,000点	9,689,251点	b
来館者数	6,791,000人	6,624,069人	b
貸出利用人数	2,617,000人	2,607,078人	b
市民一人当たりの貸出数	7.7点以上	7.4点	b
メールマガジン配信件数	16,900件	18,673件	a
パブリシティ件数	44件	54件	a

<p><b>【評価の説明】</b></p> <p>「新規登録者数」「貸出総数」「来館者数」「貸出利用人数」は、目標値を下回っており、中規模修繕等の3図書館の臨時休館による減少を見込んでいましたが、わずかに目標値には届きませんでした。しかし、平成29年度の実績と比較すると、4つの指標全てが、前年を上回りました。</p> <p>貸出総数を人口で割った「市民一人当たりの貸出数」も、貸出総数が伸びなかったこともあり、目標値に届きませんでした。</p> <p>「メールマガジン配信件数」は、目標値を上回りました。平成29年度の実績と比較しても、1,000件以上（約7%）増加しました。</p> <p>「パブリシティ件数」は、各図書館がそれぞれの活動のPRに努めたこともあり、目標値を上回りました。新たな情報発信の手段として、平成29年11月1日より開始したツイッターは、平成30年度において400件以上ツイートした結果、55万件以上の閲覧がありました。</p>
---

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】②	幅広く計画的な資料の収集・保存	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズに応えるため、計画的に資料を収集し、幅広い蔵書を整備・維持します。</li> <li>・資料を有効活用するため、分担保存の見直しを行います。</li> <li>・電子書籍の利用を促進させるため、実態調査を行うとともに、資料を充実させていきます。</li> <li>・視聴覚資料の提供方法について検討します。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
資料回転率	2.65点	2.64点	b
雑誌タイトル数	853タイトル	837タイトル	b
新聞タイトル数	121タイトル	120タイトル	b
所蔵タイトル数（図書）	1,145,000タイトル	1,133,402タイトル	b
市民一人当たりの資料数	2.9点	2.8点	b

<p>【評価の説明】</p> <p>蔵書数を貸出点数で割った「資料回転率」は、平成29年度の実績と比較すると高くなっていますが、目標値をわずかに下回りました。</p> <p>「雑誌タイトル数」については、目標値には届かず、平成29年度よりさらに減少しており、雑誌の休刊・廃刊の影響が考えられます。「新聞タイトル数」も、わずかながら目標値には及びませんでした。</p> <p>「所蔵タイトル数(図書)」は、目標値には届きませんでした。</p> <p>「市民一人当たりの資料数」は蔵書数を人口で割ったものですが、平成29年度の実績値と同数となり、目標には届きませんでした。</p> <p>電子書籍は、平成28年3月から提供を始め、資料数は平成28年度末で5,371点、平成29年度末で10,423点で、平成30年度末までには11,334点（地域資料105点）となりました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】③	地域の歴史と文化の保存	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立図書館や県内市町村立図書館と連携し、地域資料及び行政資料を積極的に収集・保存し、提供します。</li> <li>・ デジタル化する資料を選定し、著作権処理を経てデジタル化した資料をインターネットで公開します。</li> <li>・ アーカイブズセンターや関連部署が推進している、歴史・文化資源アーカイブ化事業と連携します。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
地域・行政資料の蔵書数	150,000点	151,737点	a
デジタル化した地域資料のインターネット公開	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「地域・行政資料の蔵書数」は目標を達成し、平成29年度より約4,900点増やすことができました。</p> <p>「デジタル化した地域資料のインターネット公開」については、デジタル化するために必要な著作権処理を行える資料が少なくなる中で、地域資料から6点を選び、延1,091ページのデジタル化を行いました。地域資料でインターネット公開をしている資料も105点となりました。</p>
---



さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】④	ICT（情報通信技術）を活用したサービスの充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館ホームページのコンテンツを充実させ、システム更新時には刷新できるように、検討を行います。</li> <li>・インターネット閲覧サービスや無線LANなど、図書館内で利用できるネットワーク環境を整備します。</li> <li>・利用者自身が迅速に貸出手続を行えるよう、自動貸出機の導入を推進します。</li> <li>・来館しなくても利用できるサービスとして、インターネットを利用した音楽配信サービスを導入します。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
ホームページコンテンツの充実	実施	実施	a
インターネット延利用人数	124,800人	115,527人	b
自動貸出機の整備	1館	1館	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「ホームページコンテンツの充実」については、行事やパブリシティで公表した事業のほか、12月に「さいたま市ゆかりの児童文学者紹介」のページを公開し、石井桃子氏の略歴、図書館での講演会・展示会情報、図書館資料の所蔵状況などを紹介しました。3月には、瀬田貞二氏の紹介ページも追加掲載しました。そのほか、寄贈された移動図書館車についても、車両の製作状況等の情報を掲載しました。</p> <p>各図書館のインターネット閲覧端末を利用した人数を示す「インターネット延利用人数」は、目標値に達しませんでした。9月から導入したSaitama City Free Wi-Fiの利用や、スマートフォンの普及などにより、図書館内における需要が減少してきたことが一因と思われます。</p> <p>「自動貸出機の整備」では、目標どおり1館で導入し、利用者の利便性を高めました。</p> <p>インターネットを利用した音楽配信データベースとして、5月から「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」を導入しました。</p>
---

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑤	文化事業の開催	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の文化活動・読書活動を支援するため、様々な事業を開催します。また、アンケート等を実施し、ニーズを把握するとともに、市民のアイデアを生かした事業を企画・開催します。</li> <li>・北図書館10周年、春野図書館20周年の開館を記念した事業を行います。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
講座等の実施回数	130回	118回	b
講座等の参加人数	2,430人	2,322人	b
映画会の開催回数	100回	110回	a
映画会の参加人数	4,685人	4,484人	b
展示会の開催回数	18回	43回	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「講座等の実施回数」は、目標値に達しておらず、前年比でも13回減少しました。また、参加人数は、過去の実績を基に目標を設定しましたが、目標を達成できず、実施回数が伸びなかったことが、そのまま参加人数にも反映されたものと思われます。</p> <p>映画会については、実施回数は目標値を達成しましたが、前年よりはわずかに減っています。その影響からか、参加人数も目標に達せず、前年比でも減りました。</p> <p>展示会については、各図書館でそれぞれに展示を行った結果、目標を達成し、前年比でも増加しました。市立高校と協働で行った、それぞれの推薦する本を展示する交換展示や、北図書館の10周年と春野図書館の20周年を記念して行った展示等が、展示会の増加に寄与しています。</p>
---

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑥	あらゆる世代に向けたサービスの充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の楽しみを広く伝えるため、テーマ資料展示を充実させ、その活用方法も検討していきます。</li> <li>・読書に関する催し物等を実施し、本に親しむ機会を提供します。</li> <li>・乳幼児から高齢者まで、本を通して人々が交流する機会を拠点館単位で提供します。</li> <li>・中高生に向けた本の紹介資料の作成・配布を行います。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
テーマ資料展示の実施回数	919回	976回	a
各世代向けの本の紹介資料作成	137点	138点	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「テーマ資料展示の実施回数」と「各世代向け本の紹介資料作成」は、ともに目標値を上回りました。</p> <p>「テーマ資料展示の実施回数」については、平成29年度実績と比較しても大きく増加しました。内容の充実を図るため、前年度に引き続き資料展示研修を実施したほか、さいたま市生涯学習「学びのネットワーク」の取り組みとして、各館がお茶に関する展示を行いました。</p> <p>「各世代向けの本の紹介資料作成」については、資料展示のブックリストのほか、各拠点館で様々な紹介資料を作成しました。桜図書館で作成した「オランダの子どもの本を読む」と題したブックナビ及びブックリストや、岩槻図書館で作成した歴史講座に関連したブックリスト「城下町 岩槻」等があります。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑦	レファレンスサービスの充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立国会図書館や公立図書館、大学図書館、専門機関と連携し、相互貸借や様々なレファレンス、高度な調査・相談に対応するとともに、受付事例を登録し、公開します。</li> <li>・国立国会図書館の「歴史的音源」サービスを導入します。</li> <li>・パスファインダーや資料紹介をホームページに掲載し更新します。</li> <li>・ICTを活用したレファレンスサービスについて研究します。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
レファレンス受付件数	129,200件	131,788件	a
レファレンス事例の公開件数	188件	188件	a
職員レファレンス研修の開催回数	14回	13回	b
パスファインダー（調べ案内）作成数	11タイトル	21タイトル	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「レファレンス受付件数」及び「レファレンス事例の公開件数」は、目標値に達しました。レファレンス事例の公開は、国会図書館の主催するレファレンス協同データベース上に、各館で受けたレファレンスの記録を登録するものですが、平成30年度も登録のための研修を実施し、各館が事例の登録に努めました。</p> <p>「職員レファレンス研修の開催回数」については、目標と同程度の研修を開催しました。中央図書館主催のレファレンス研修についても、平成29年度とほぼ同じ回数の研修を行いました。</p> <p>一方、「パスファインダー（調べ案内）作成数」は、各館が新規及び改訂版の作成に積極的に取り組み、目標値を上回る結果となりました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑧	地域の課題解決	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画や地域の産業等、地域の特性により必要とされる資料を収集し、提供します。</li> <li>・市内の行政事務・業務に関して、資料や情報を提供する行政支援サービスを行います。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
町おこしや地域活性化、地域コミュニティなどの課題に関わる資料の市民への提供	実施	実施	a
市の各所管からの業務に対する問合せ件数	35件	36件	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「町おこしや地域活性化、地域コミュニティなどの課題に関わる資料の市民への提供」については、一例として、武蔵浦和図書館で「埼玉 地力を活かす」という特集のテーマ資料展示を行う等、地域に関する資料の提供を積極的に行いました。</p> <p>「市の各所管からの業務に対する問合せ件数」では、目標値を上回る問合せがありました。問合せの内訳は、貸出が27件、レファレンスが2件、複写が7件でした。</p>
---

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑨	生活支援サービスの展開	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中での様々な課題に関するテーマ資料展示を実施し、ブックリストの作成・配布を行うとともに、ホームページに展示情報を掲載します。</li> <li>・ビジネス、法律、医療、健康、福祉及び子育てに関する情報の提供等、市民の暮らしに直接関わる分野の情報提供に努め、各分野の専門機関との連携・協働を行います。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
日常生活での課題解決に関わる分野の情報提供の取組	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「日常生活での課題解決に関わる分野の情報提供の取組」については、その一環として、与野南図書館で「環境問題を知る」をテーマに、資料展示を実施しました。展示の際には、ブックリストを作成・配布するとともに、ホームページにも掲載しました。</p> <p>ビジネスに関する情報提供の取り組み（ビジネス支援）として、中央図書館で創業に関する相談会を延27回行い、90名の参加がありました。また、創業に関する講演会を延12回行い、231名の参加がありました。</p> <p>他部署と連携して医療、健康分野でがん、メンタルヘルス、依存症、食の安全等の展示も行っています。</p>
---

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑩	バリアフリーサービスの充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の利用に障害がある方へ配慮した、資料や機器・機材を整備し充実させます。</li> <li>・大活字本や字幕入り・手話入りの映像資料等の所蔵リストや利用に関する情報を、障害のある方にもホームページ等で利用しやすいように提供します。</li> <li>・関係機関・団体と連携し、録音図書や点字図書・点訳絵本の作製・貸出、対面朗読等を実施します。</li> <li>・バリアフリーサービスに関する研修・講座を企画・開催するとともに外部の研修にも参加するなどして、能力・知識を向上させます。</li> <li>・来館が困難な方への宅配サービスの充実のため、制度の改良を研究します。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
音訳資料・点訳資料の所蔵数	3,120点	3,344点	a
対面朗読回数	316回	269回	b
宅配サービスの貸出数	545点	552点	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「音訳資料・点訳資料の所蔵数」は、関係機関・団体との連携により、目標値を大きく上回りました。</p> <p>「対面朗読回数」は、中央図書館と武蔵浦和図書館での利用者数が減ったため、目標値には届きませんでした。平成29年度より、約10%増加しました。</p> <p>「宅配サービスの貸出数」は、登録者数が増加したことにより、目標値を上回りました。</p> <p>そのほか、所属内研修を行うとともに、外部の研修にも参加し、バリアフリーサービスの向上や環境の整備に努めました。</p>
---

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑪	多文化サービスの充実	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な言語や文化に対する相互理解を深めるために、市内在留外国人や訪日外国人のニーズを考慮した外国語資料を収集し、提供します。</li> <li>・外国語絵本等の展示や、多言語でのおはなし会等、在留外国人・ボランティアや関連機関と連携・協働した事業を実施し、市民が様々な言語にふれる機会を提供します。</li> <li>・案内表示・書架サインなどについて、日本語の漢字ひらがな併記・多言語化を行います。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
外国語資料の受入点数	604点	672点	a
多文化サービスに関わる展示	25回	21回	b

<p>【評価の説明】</p> <p>「外国語資料の受入点数」は、平成29年度よりは減少しましたが、目標を達成しました。全体として、減少した館が多かったものの、6館では平成29年度よりも受入を増やしました。</p> <p>「多文化サービスに関わる展示」については、市内各館で平均して1回以上展示を行うことを目指したものの、目標を達成することが出来ませんでした。</p> <p>多言語のおはなし会については、中央図書館で4回実施したのを始め、4図書館で行いました。</p>
--



さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑫	子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さいたま市子ども読書活動推進計画（第三次）」に基づき、子どもが読書に親しめる環境づくりを進め、「不読者」の割合を減らす取組を行います。</li> <li>・家庭での読書の大切さを伝える講座や展示、イベントを実施し、「子どもといっしょに読書タイム」を推進します。</li> <li>・読み聞かせボランティアを対象にした、ブックリストの作成やスキルアップ講座の開催等の支援を行います。</li> <li>・中高生を対象にした、図書館ボランティア体験プログラムやイベント・展示を実施します。</li> <li>・ICTを活用し、学校図書館と情報を共有するとともに、学校図書館支援センターを中心に、教科関連図書の収集・貸出・レファレンス・情報提供を行います。</li> <li>・保育施設や学校を対象にした、おはなし会や図書館オリエンテーション、移動図書館利用体験を実施するなど、連携事業を推進します。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
小学生の不読者の割合	3.3%以下	4.1%	b
中学生の不読者の割合	8.7%以下	11.7%	c
高校生の不読者の割合	32.0%以下	36.1%	b
子ども向け行事開催数	1,341回	1,373回	a
読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施	18回	14回	c
子ども向けの資料案内の作成	37回	36回	b
学校・保育園等に対する訪問・招待実施回数	364回	372回	a

<p>【評価の説明】</p> <p>調査対象期間である1か月間に本を1冊も読まない“不読者”の割合は、小学生、中学生、高校生のすべてにおいて、目標値には及ばない結果となりました。なお、各図書館と市立小・中学校で「冬の読書キャンペーン」を初めて実施し、キャンペーン期間中は、特に中学校の学校図書館において、前年より貸出数が増加する等の効果がありました。</p> <p>「子ども向け行事開催数」は、目標値を達成することができました。これは、前年度に引き続き、「おはなし会」、「あかちゃんおはなし会」、「工作教室」に加え、各館が独自に企画した行事を開催する等、精力的に取り組んだ結果です。</p> <p>「読み聞かせや本に関する講座・講演会の実施」については、「ストーリーテリング入門講座」「読み聞かせスキルアップ講座」を開催したほか、継続講座を実施する等、読書環境を支える人材を育成する取り組みを行いましたが、目標値には届きませんでした。</p> <p>「学校・保育園等に対する訪問・招待実施回数」については、目標値を達成することができました。特に、学校に対する招待の実施回数が半数以上を占めており、学校と連携し、図書館を体験する機会をより多く提供しています。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑬	図書館評価と市民意識の反映	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館の運営状況及びサービスについて、「さいたま市図書館ビジョン」に基づいた指標により評価し、その結果を市民に公表します。</li> <li>・図書館サービスの充実・向上を図るため、「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」を実施し、結果を公表して意見を運営に反映させます。</li> <li>・図書館協議会を開催して市民等の意見を聴き、図書館サービスを向上させます。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
図書館評価の実施と公表	実施	実施	a
「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」の実施と公表	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「図書館評価の実施と公表」については、平成29年度事業について評価を行い、図書館協議会の意見を踏まえて、報告書としてまとめ公表しました。</p> <p>「「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」の実施と公表」については、平成30年9月14日から9月24日までの間、休館中の大宮東図書館、与野南図書館を除く計23館で実施して、4,069件の回答がありました。調査結果は、平成31年1月11日から2月12日まで館内に掲示したほか、ホームページに掲載し公表しました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑭	市民との協働	【総合評価】	B
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館で活動するボランティアを支援するとともに、ボランティア・地域団体と連携した事業を実施します。</li> <li>・地域で開催される催し物等に参加します。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
ボランティアとの協働事業数	123事業	112事業	b
ボランティアとの協働事業の延実施回数	750回	689回	b

<p>【評価の説明】</p> <p>「ボランティアとの協働事業数」は、平成29年度から12事業増加しましたが、目標値には達しませんでした。</p> <p>「ボランティアとの協働事業の延実施回数」についても、目標値には届きませんでした。ボランティアとの連携は、各館で継続して行っています。</p> <p>地域で開催される催し等への参加については、北浦和図書館の「うなぎまつり」や、桜図書館の「桜区区民ふれあいまつり」への参加等の事例がありました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑮	関連機関（公共機関・民間機関・NPO）との連携	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育機関や文化・福祉施設、民間機関・NPOなど、様々な機関との連携事業を実施します。</li> <li>・中学生、高校生、大学生、教員等の職場体験・図書館実習を積極的に受け入れます。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
連携事業の連携先機関数	41機関	46機関	a
職場体験の受入件数	102件	141件	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「連携事業の連携先機関数」は、目標を達成し、平成29年度と比べても4機関（約10%）増加しています。取組としては、浦和レッズ、大宮アルディージャ等の民間の機関から、美術館や博物館、公民館、コミュニティーセンター、学校などの公共機関との連携まで、様々な機関との連携を推進しました。</p> <p>職場体験は、「未来（みら）くるワーク（市立中学校の生徒による職場体験）」受入れに加え、一日図書館員体験、さいたま・ライブラリー・サポーターズなどの受入れにより、目標値を上回りました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑯	地域の特色を生かした運営	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サッカー、鉄道、盆栽、人形等の地域の歴史・特色に関連した資料を収集し保存します。</li> <li>・地域の歴史・特色に関連した資料のブックリスト等を作成・配布し、情報提供を行います。</li> <li>・Jリーグクラブチーム等との連携・協働・協力により展示コーナーの設置やイベントの開催などを行います。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
地域の特色を生かした取組	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>地域の特色に関連した資料の紹介のため、大宮西部図書館の『Train Library』、与野図書館の『バラのまちだより』、東浦和図書館の『We read REDS！東浦和図書館サッカーコーナー通信』などのブックリストを作成・配布しました。</p> <p>岩槻区内3館の図書館では、「岩槻まちかど雛めぐり」に合わせ、館内につるし雛を飾るとともに関連資料の展示を行いました。</p> <p>Jリーグクラブチームとの連携としては、大宮図書館と東浦和図書館で、それぞれ大宮アルディージャと浦和レッズの試合開催日に、各スタジアムで出張展示を行いました。さらに大宮図書館では、スタジアムでのおはなし会も開催しました。</p>
---

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑰	親しみやすい図書館づくり	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者への挨拶や、わかりやすく丁寧な対応で、明るく親しみやすい窓口をつくります。</li> <li>・接遇研修を実施するとともに接遇に関する外部研修にも参加します。</li> <li>・図書館利用者アンケートを参考に、マナー啓発を行うなど、誰もが気持ちよく利用できるよう読書環境を向上させます。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」における満足度	「満足」と「やや満足」で90%	「満足」と「やや満足」で90.6%	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」における満足度」は、同アンケートの設問の中の、図書館の施設・設備、案内表示、資料の探しやすさや、職員の対応や説明、予約・リクエストサービスの5つの項目における満足度を評価の対象としています。これらの項目で、「満足・やや満足・やや不満・不満」の4つから選択された回答結果について、「満足」と「やや満足」を合わせた割合を評価しました。その結果、目標を達成しました。</p> <p>特に、5つの項目のうち「職員の対応や説明」については、「満足」と「やや満足」を合わせて97.5%と、他の項目に比べ高い評価となっています。</p> <p>接遇研修については、中央図書館主催による研修を実施しています。</p> <p>また、図書館利用者アンケートを参考に、汚破損のあった本を展示して、本の扱いのマナー向上を訴えたり、座席を増設する等の取り組みを行いました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑱	職員の資質・能力の向上	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料や情報を的確に提供する技術を高めるため、組織内で計画的に研修を実施します。</li> <li>・他局等で行われる研修や、国や県等の外部組織で主催される研修に積極的に職員を派遣します。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
組織内研修の実施回数	115回	184回	a
派遣研修の件数	120件	122件	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「組織内研修の実施回数」と「派遣研修の件数」は、ともに目標を達成しました。</p> <p>「組織内研修の実施回数」については、中央図書館が各拠点館の職員を対象に「音楽配信データベース説明会」「オフライン貸出研修」等の様々な実務研修を実施し、各拠点館でも「児童集会行事研修」「交通安全講習」「団体貸出研修」や「Wi-Fi研修」等の独自の課内研修を精力的に実施したことにより、目標を大きく上回りました。</p> <p>「派遣研修の件数」については、埼玉県図書館協会主催の「図書館新任職員研修会」等の新任者向け研修や同協会主催の「障害者サービス研修会」「参考調査研修会」等の専門的業務を対象とした研修に派遣したほか、さいたま市主催の市職員を対象とした「KAIZENサマーセミナー」や「男女共同参画職員研修」等にも派遣し、図書館員として、また、市の職員としても資質・能力が高められるよう、積極的に各研修へ職員を参加させました。</p>
---

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑱	専門的職員の配置	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の高度で多様な要求に適切に応えるため、専門性を生かし、資料・情報の提供及び紹介などを行います。</li> <li>・専門性の向上につながる研修を受講するとともに、学校の授業や公民館・コミュニティ施設等において講師等を務めます。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
専門性の向上につながる研修の受講や講師等としての派遣	実施	実施	a
専門性を生かした適切な資料の提供や紹介	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「専門性の向上につながる研修の受講や講師としての派遣」の「研修の受講」については、「児童図書館員養成専門講座」（日本図書館協会主催）「ビジネス・ライブラリアン講習（フォローアップ研修）」「健康・医療情報基礎研修会」（いずれも埼玉県図書館協会主催）等の、専門的知識を高める研修に参加しました。「講師としての派遣」については、「図書館新任職員研修会」「図書館中級職員研修会」（いずれも埼玉県図書館協会）「初任者研修（中学校国語）」（教育研究所）等に講師を派遣したほか、保育園や小学校での読み聞かせボランティアに向けた講座で講師を務めました。さらに、公民館での講座や中学校での総合的な学習授業にも、講師として出向いています。</p> <p>「専門性を生かした適切な資料提供と紹介の実施」については、様々なテーマ資料展示を実施するとともに、ブックリストを作成し配布しました。また、中央図書館で実施した「がん検診普及啓発～自分のため 家族のために 受けよう がん検診～」等の他機関と連携した展示会においても、理解の助けとなるような関連図書を展示しました。</p>
--



さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】⑳	施設・設備の充実	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さいたま市図書館施設リフレッシュ計画」等に基づき、与野南図書館、大宮東図書館の改修工事、大宮西部図書館のエレベーター更新工事、南浦和図書館の外壁及びエレベーターの修繕工事を行います。</li> <li>・施設・設備のバリアフリー化や案内表示等のユニバーサルデザイン化のため、館内表示等の見直しを行います。</li> <li>・大宮図書館の建替え、移転に向けて準備を行います。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
施設・設備の計画的な改修及びバリアフリー化の推進（改修館数）	2館	2館	a

<p>【評価の説明】</p> <p>与野南図書館と大宮東図書館で中規模修繕を行い、トイレの洋式化や照明のLED化等を行いました。また与野南図書館では、障がい者用駐車場を新たに設置しました。このほかにも、大宮西部図書館ではエレベーター更新工事を、南浦和図書館では外壁工事とエレベーター更新工事を行いました。</p> <p>大宮図書館の建替え、移転に向けた準備については、開館に向けて、事業者と関係部署・機関との協議を重ねました。</p>
---

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】②	持続的で安定した図書館の運営	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門部会を開催し、図書館サービスについて調査研究を行います。</li> <li>・大宮図書館の建替え、移転後も図書館ネットワークを安定して運営できるよう、課題を整理します。</li> <li>・広告料収入等の財源確保や経費節減につながる取組を行います。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
業務マニュアルの整備・見直し	実施	実施	a
財源確保や経費節減につながる取組	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「業務マニュアルの整備・見直し」は、中央図書館、拠点図書館で実施し、「図書館危機管理マニュアル」の改訂、イベント参加者の体調不良に対応するためのマニュアル「夏季イベント等での熱中症への対応について」の整備等を行いました。</p> <p>「財源確保や経費節減につながる取組」としては、財源確保では、新規にパネル広告の設置（11館）を行いました。そのほか、パンフレットラック（11館）、広告付きマット（1館）、図書館ホームページバナー広告（3社）により財源を得ました。また、経費節減のための取組としては、対象となる雑誌に企業の広告付きカバーをつけて、広告主の企業にその雑誌の購入費を負担いただく、雑誌サポート事業（1館）を実施しました。</p>
--

さいたま市図書館評価票（平成30年度）

【目標】②	危機管理体制の強化	【総合評価】	A
<p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書館危機管理対応マニュアル」を基に、市民の安全を守るための危機管理体制を強化します。</li> <li>・消防計画による消防訓練や防災訓練等を実施します。</li> <li>・職員の危機意識を高めるため、情報セキュリティやコンプライアンスに関する研修を実施します。</li> </ul>			

指 標	平成30年度の目標値	平成30年度の実績	指標別評価
職員の危機管理意識を高める取組	実施	実施	a

<p>【評価の説明】</p> <p>「職員の危機管理意識を高める取組」として、「図書館危機管理マニュアル」の改訂とともに、各館で職員・スタッフによる館内巡回を実施し、利用者の安全確保に努めました。</p> <p>各図書館では消防訓練を実施し、複合施設の場合は施設全体の訓練に参加しました。また、応急手当講習（AED操作訓練を含む）を実施しました。</p> <p>各拠点館ごとにコンプライアンス研修や情報セキュリティ研修を行い、職員の危機管理意識を高め、職場内におけるコンプライアンス遵守を推進しました。</p>
---

## 参考資料

### 図書館法・図書館の設置及び運営上の望ましい基準

#### (1) 図書館法 (昭和二十五年四月三十日法律第百十八号)

最終改正：平成二三年一二月一四日法律第一二二号

(運営の状況に関する評価等)

第七条の三 図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

#### (2) 図書館の設置及び運営上の望ましい基準

(平成 24 年 12 月 19 日 文部科学省告示第 172 号)

##### (二) 運営の状況に関する点検及び評価等

- 1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、(一)の 2 の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。
- 2 市町村立図書館は、前項の点検及び評価のほか、当該図書館の運営体制の整備の状況に応じ、図書館協議会（法第十四条第一項に規定する図書館協議会をいう。以下同じ。）の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、図書館の事業に関して学識経験のある者、図書館の利用者、住民その他の関係者・第三者による評価を行うよう努めるものとする。
- 3 市町村立図書館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。
- 4 市町村立図書館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）をはじめとした多様な媒体を活用すること等により、積極的に公表するよう努めなければならない。

## さいたま市図書館の運営状況に関する評価実施要項

### (目的)

第1条 この要項は、図書館法（昭和25年法律第118号）第7条の3の規定に基づき実施する、さいたま市図書館（以下「図書館」という。）の運営状況に関する評価（以下「評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

### (評価の対象)

第2条 評価は、図書館の運営状況について、毎年度行うものとする。

### (目標、指標及び目標値)

第3条 評価にあたっての目標は、別表第1に定めるとおりとする。

2 目標ごとの指標及び指標ごとの目標値は、図書館に設置される図書館評価専門部会が検討し、中央図書館長が定める。

### (評価者)

第4条 評価にあたっては、図書館評価専門部会が、指標の達成状況を点検するとともに、さいたま市図書館協議会の意見を聴取した上で、評価案を作成し、中央図書館長が決定する。

### (評価及び評価の段階)

第5条 目標ごとに各指標の達成状況について指標別評価を行い、その結果を評点として数値化し、評点の平均により当該目標の総合評価を行う。

2 評価の段階は、4段階とし、段階ごとの評価基準は、別表第2に定めるとおりとする。

### (評価票)

第6条 評価の内容及び結果を記録する評価票の様式は、様式第1号に定めるとおりとする。

### (評価結果の公表)

第7条 図書館は、評価の結果をホームページ等を活用して、市民に公表するものとする。

### (評価結果の活用)

第8条 図書館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

### (庶務)

第9条 評価に関する庶務は、中央図書館資料サービス課において処理する。

### (委任)

第10条 この要項に定めるもののほか、この要項の施行に関し必要な事項は、中央図書館長が別に定める。

### 附 則

この要項は、平成24年11月5日から施行する。

### 附 則

この要項は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

別表第 1 (第3条関係)

目標
図書館利用の普及と P R 及び情報発信の強化
幅広く計画的な資料の収集・保存
地域の歴史と文化の保存
I C T (情報通信技術) を活用したサービスの充実
文化事業の開催
あらゆる世代に向けたサービスの充実
レファレンスサービスの充実
地域の課題解決
生活支援サービスの展開
バリアフリーサービスの充実
多文化サービスの充実
子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携
図書館評価と市民意識の反映
市民との協働
関連機関 (公共機関・民間機関・N P O) との連携
地域の特色を生かした運営
親しみやすい図書館づくり
職員の資質・能力の向上
専門的職員の配置
施設・設備の充実
持続的で安定した図書館の運営
危機管理体制の強化

別表第2（第5条関係）

指標別評価	評価基準	目標達成率	評点
a	目標値を達成できた	目標値の100%以上	3
b	目標値をほぼ達成できた	目標値の80%以上100%未満	2
c	目標値をあまり達成できなかった	目標値の50%以上80%未満	1
d	目標値を達成できなかった	目標値の50%未満	0

総合評価	評価基準	評点の平均
A	目標を達成できた	2.7以上
B	目標をほぼ達成できた	2.0以上2.7未満
C	目標をあまり達成できなかった	1.0以上2.0未満
D	目標を達成できなかった	1.0未満



さいたま市図書館評価票（平成 年度）

【目標】		【総合評価】	
【取組内容】			

指 標	平成 年度の目標値	平成 年度の実績	指標別 評価

【評価の説明】
---------

# さいたま市図書館ビジョン

さいたま市の図書館が、今後、取り組むべきサービスの目標や指針、管理運営などの基本方針を「さいたま市図書館ビジョン」として平成25年3月に策定しました。

図書館ビジョンでは、さいたま市の図書館を「地域の知の拠点」として位置づけ、その役割を果たしていくため、

知的好奇心に応える図書館

生きる力を支える図書館

市民とともに歩む図書館

誰もが安心して使える図書館

の4つの目標を掲げており、これらを実現していくための22の基本方針を定め、総合振興計画の実施期間に合わせて、この基本方針を達成するための取組を平成25年度から平成32年度までの8年間実施してまいります。

## ■ さいたま市図書館ビジョン ■

### 1 知的好奇心に応える図書館

生涯学習と情報発信の拠点として市民ニーズに応える資料を収集・保存し、さらに情報化に対応したサービスを提供して市民の知的活動を支援します。

### 2 生きる力を支える図書館

誰もが利用しやすいサービスをすすめ、市民が自ら必要な知識・情報・スキルの獲得ができる環境を整備します。

### 3 市民とともに歩む図書館

図書館運営の現状と課題を市民と共有し、市内で活躍する豊富な人材と連携・協働することにより、地域の特色を生かした運営をします。

### 4 誰もが安心して使える図書館

さいたま市図書館ネットワークを活用したサービスを展開するとともに、市民の要求に的確に応えるため、図書館職員の資質・能力の向上を図ります。市民の誰もが安全安心に利用できるよう、施設・設備の充実に努めます。

# さいたま市図書館ビジョンに基づく取組内容(平成30年度)

## 1 知的好奇心に応える図書館

### (1) 図書館利用の普及とPR及び情報発信の強化

- 図書館利用促進のために、報道機関への資料提供を有効的に活用し、PRを行います。
- ホームページやメールマガジン等を活用し、図書館サービスについて情報を発信します。
- 図書館を利用したことのない人々に対するPRを行います。

### (2) 幅広く計画的な資料の収集・保存

- 市民のニーズに応えるため、計画的に資料を収集し、幅広い蔵書を整備・維持します。
- 資料を有効活用するため、分担保存の見直しを行います。
- 電子書籍の利用を促進させるため、実態調査を行うとともに、資料を充実させていきます。
- 視聴覚資料の提供方法について検討します。

### (3) 地域の歴史と文化の保存

- 県立図書館や県内市町村立図書館と連携し、地域資料及び行政資料を積極的に収集・保存し、提供します。
- デジタル化する資料を選定し、著作権処理を経てデジタル化した資料をインターネットで公開します。
- アーカイブズセンターや関連部署が推進している、歴史・文化資源アーカイブ化事業と連携します。

### (4) ICT(情報通信技術)を活用したサービスの充実

- 図書館ホームページのコンテンツを充実させ、システム更新時には刷新できるように、検討を行います。
- インターネット閲覧サービスや無線LANなど、図書館内で利用できるネットワーク環境を整備します。
- 利用者自身が迅速に貸出手続を行えるよう、自動貸出機の導入を推進します。
- 来館しなくても利用できるサービスとして、インターネットを利用した音楽配信サービスを導入します。

### (5) 文化事業の開催

- 市民の文化活動・読書活動を支援するため、様々な事業を開催します。また、アンケート等を実施し、ニーズを把握するとともに、市民のアイデアを生かした事業を企画・開催します。
- 北図書館10周年、春野図書館20周年の開館を記念した事業を行います。

## 2 生きる力を支える図書館

### (6) あらゆる世代に向けたサービスの充実

- 読書の楽しみを広く伝えるため、テーマ資料展示を充実させ、その活用方法も検討していきます。
- 読書に関する催し物等を実施し、本に親しむ機会を提供します。
- 乳幼児から高齢者まで、本を通して人々が交流する機会を拠点館単位で提供します。
- 中高生に向けた本の紹介資料の作成・配布を行います。

### **(7)レファレンスサービスの充実**

- 国立国会図書館や公立図書館、大学図書館、専門機関と連携し、相互貸借や様々なレファレンス、高度な調査・相談に対応するとともに、受付事例を登録し、公開します。
- 国立国会図書館の「歴史的音源」サービスを導入します。
- パスファインダーや資料紹介をホームページに掲載し更新します。
- ICTを活用したレファレンスサービスについて研究します。

### **(8)地域の課題解決**

- 都市計画や地域の産業等、地域の特性により必要とされる資料を収集し、提供します。
- 庁内の行政事務・業務に関して、資料や情報を提供する行政支援サービスを行います。

### **(9)生活支援サービスの展開**

- 日常生活の中での様々な課題に関するテーマ資料展示を実施し、ブックリストの作成・配布を行うとともに、ホームページに展示情報を掲載します。
- ビジネス、法律、医療、健康、福祉及び子育てに関する情報の提供等、市民の暮らしに直接関わる分野の情報提供に努め、各分野の専門機関との連携・協働を行います。

### **(10)バリアフリーサービスの充実**

- 図書館の利用に障害がある方へ配慮した、資料や機器・機材を整備し充実させます。
- 大活字本や字幕入り・手話入りの映像資料等の所蔵リストや利用に関する情報を、障害のある方にもホームページ等で利用しやすいように提供します。
- 関係機関・団体と連携し、録音図書や点字図書・点訳絵本の作製・貸出、対面朗読等を実施します。
- バリアフリーサービスに関する研修・講座を企画・開催するとともに外部の研修にも参加するなどして、能力・知識を向上させます。
- 来館が困難な方への宅配サービスの充実のため、制度の改良を研究します。

### **(11)多文化サービスの充実**

- 様々な言語や文化に対する相互理解を深めるために、市内在留外国人や訪日外国人のニーズを考慮した外国語資料を収集し、提供します。
- 外国語絵本等の展示や、多言語でのおはなし会等、在留外国人・ボランティアや関連機関と連携・協働した事業を実施し、市民が様々な言語にふれる機会を提供します。
- 案内表示・書架サインなどについて、日本語の漢字ひらがな併記・多言語化を行います。

### **(12)子ども読書活動への支援及び学校図書館との連携**

- 「さいたま市子ども読書活動推進計画(第三次)」に基づき、子どもが読書に親しめる環境づくりを進め、「不読者」の割合を減らす取組を行います。
- 家庭での読書の大切さを伝える講座や展示、イベントを実施し、「子どもといっしょに読書タイム」を推進します。
- 読み聞かせボランティアを対象にした、ブックリストの作成やスキルアップ講座の開催等の支援を行います。
- 中高生を対象にした、図書館ボランティア体験プログラムやイベント・展示を実施します。

- ICTを活用し、学校図書館と情報を共有するとともに、学校図書館支援センターを中心に、教科関連図書の収集・貸出・レファレンス・情報提供を行います。
- 保育施設や学校を対象にした、おはなし会や図書館オリエンテーション、移動図書館利用体験を実施するなど、連携事業を推進します。

### 3 市民とともに歩む図書館

#### (13) 図書館評価と市民意識の反映

- 図書館の運営状況及びサービスについて、「さいたま市図書館ビジョン」に基づいた指標により評価し、その結果を市民に公表します。
- 図書館サービスの充実・向上を図るため、「さいたま市図書館の利用に関するアンケート」を実施し、結果を公表して意見を運営に反映させます。
- 図書館協議会を開催して市民等の意見を聴き、図書館サービスを向上させます。

#### (14) 市民との協働

- 図書館で活動するボランティアを支援するとともに、ボランティア・地域団体と連携した事業を実施します。
- 地域で開催される催し物等に参加します。

#### (15) 関連機関(公共機関・民間機関・NPO)との連携

- 教育機関や文化・福祉施設、民間機関・NPOなど、様々な機関との連携事業を実施します。
- 中学生、高校生、大学生、教員等の職場体験・図書館実習を積極的に受け入れます。

#### (16) 地域の特色を生かした運営

- サッカー、鉄道、盆栽、人形等の地域の歴史・特色に関連した資料を収集し保存します。
- 地域の歴史・特色に関連した資料のブックリスト等を作成・配布し、情報提供を行います。
- Jリーグクラブチーム等との連携・協働・協力により展示コーナーの設置やイベントの開催などを行います。

### 4 誰もが安心して使える図書館

#### (17) 親しみやすい図書館づくり

- 利用者への挨拶や、わかりやすく丁寧な対応で、明るく親しみやすい窓口をつくります。
- 接遇研修を実施するとともに接遇に関する外部研修にも参加します。
- 図書館利用者アンケートを参考に、マナー啓発を行うなど、誰もが気持ちよく利用できるよう読書環境を向上させます。

#### (18) 職員の資質・能力の向上

- 資料や情報を的確に提供する技術を高めるため、組織内で計画的に研修を実施します。
- 他局等で行われる研修や、国や県等の外部組織で主催される研修に積極的に職員を派遣します。

### **(19) 専門的職員の配置**

- 市民の高度で多様な要求に適切に応えるため、専門性を生かし、資料・情報の提供及び紹介などを行います。
- 専門性の向上につながる研修を受講するとともに、学校の授業や公民館・コミュニティ施設等において講師等を務めます。

### **(20) 施設・設備の充実**

- 「さいたま市図書館施設リフレッシュ計画」等に基づき、与野南図書館、大宮東図書館の改修工事、大宮西部図書館のエレベーター更新工事、南浦和図書館の外壁及びエレベーターの修繕工事を行います。
- 施設・設備のバリアフリー化や案内表示等のユニバーサルデザイン化のため、館内表示等の見直しを行います。
- 大宮図書館の建替え、移転に向けて準備を行います。

### **(21) 持続的で安定した図書館の運営**

- 専門部会を開催し、図書館サービスについて調査研究を行います。
- 大宮図書館の建替え、移転後も図書館ネットワークを安定して運営できるよう、課題を整理します。
- 広告料収入等の財源確保や経費節減につながる取組を行います。

### **(22) 危機管理体制の強化**

- 「図書館危機管理対応マニュアル」を基に、市民の安全を守るための危機管理体制を強化します。
- 消防計画による消防訓練や防災訓練等を実施します。
- 職員の危機意識を高めるため、情報セキュリティやコンプライアンスに関する研修を実施します。

令和元年度 さいたま市図書館評価 報告書

(平成30年度事業対象)

令和元年11月  
さいたま市立中央図書館

〒330-0055

さいたま市浦和区東高砂町1-1-1 (コムナーレ8階)

電話048-871-2100